

都市再生整備計画「大船駅周辺地区」事後評価(原案)の概要について

2013.10.15

事後評価(原案)の概要について

鎌倉市では、平成 23～25 年度にかけて社会資本整備総合交付金を活用し、大船駅周辺の歩行者を中心とした交通環境改善のために、都市再生整備計画事業を行ってきました。

この度、事業終了年度に際し、交付金を活用したまちづくりの事後評価を実施し、まちづくりの成果や今後のまちづくり方針などを確認するため、事後評価シート(原案)を作成し、別途とりまとめています。その主な項目は以下のようになっています。

大船駅周辺地区のまちづくりの概要

区域面積：220 h a 事業期間：平成 23 年度～平成 25 年度 事業費 : 320 (百万円)

まちづくりの目標

大船駅周辺のまちづくりを進めるにあたって、以下のようなまちづくりの目標をたてました。

大船全体の魅力と拠点性を高めていくために、交通結節性と地域の個性を活かし、市民(NPO)、企業、大学、行政の協働により、「活気に溢れ、豊かな生活文化を創造し発信するまち」の実現を図る。

- 商業拠点の形成と都市機能の強化による賑わいのあるまちとする。
- 安全、安心で優しさと快適さを備えた魅力ある都市環境を創造するまちとする。

主な事業

① 大船駅西口公共広場横の市道053-000号線(大船駅岡本線)の改善整備

大船駅西口公共広場整備に伴い、公共広場までのアプローチとしてバリアフリーに配慮した勾配の改良と十分な幅員を確保した歩行空間整備や、円滑な自動車交通の処理のための改良整備を実施しました。



←バリアフリーに配慮し、緩やかな勾配と十分な幅員の歩道としました。



←円滑な交通処理のための車の右折レーンを整備しました。

② 船駅東口周辺道路の交差点部の改善（市道059-013号線：大船仲通）

歩行者の多い大船駅東口周辺の道路において、歩行者の安全性を確保するために、車の運転者に対し交差点部の視認性を高めるカラー舗装整備を行いました。



←車の停止線の前にカラー舗装を施し、運転手からの交差点部の明示性を高めました。

③大船駅東口エレベーター及びエスカレーター整備

高齢者やベビーカーを利用される方などにとって、課題のあった大船駅東口にエレベーターとエスカレーターを新設し、円滑な歩行環境の確保をしました。



←エレベーターとエスカレーターを整備し、バリアフリー化を図りました。

■ 事後評価の概要

事業の最終年度にあたり、事業の評価の結果は以下のようになっています。

指標の達成状況

①当初指標の結果

計画の中で設定した数値指標の達成状況は、以下の通りです。

大船駅周辺の歩行者を中心とした交通環境改善も踏まえた市民アンケートの結果として、

- ・指標 1 は目標値には達しなかったものの、ほぼ目標値に近づいているため、達成度△で1年以内の達成の見込みを「あり」としました。
- ・指標 2 は、市民の皆様の満足度の数値はやや向上していますが、目標値には届きませんでした。そのため目標達成度は△で1年以内の達成の見込みを「なし」としました。

指標名	事業前の数値	事業後の目標値	評価値	達成度	1年以内の見込み
指標 1 安全で快適な歩行者 交通環境の満足度	12.7% (平成 21 年)	18.7% (平成 25 年)	17.7% の見込	△	○ あり
指標 2 生活しやすい市街地 環境の満足度	29.1% (平成 21 年)	38.8% (平成 25 年)	30.0% の見込	△	× なし

②その他指標の結果

事業効果を多面的に把握するため新たに指標を設け、評価を補完しました。

指標名	事業前の数値	評価値
その他の指標 1 大船駅前の放置自転車台数	47,337 台 (平成 22 年)	37,258 台の見込み (平成 25 年)
その他の指標 2 大船駅自由通路のバリアフリー化率	44.4%	100%
その他の指標 3 大船駅西口の交通環境等の課題解決の 達成度 (アンケート)	-	95% (平成 24 年 12 月)

③定性的な評価

上記の数値的な評価の他、数値では表せない事業効果を以下にまとめています。

- ・大船駅東口エレベーター及びエスカレーターは、駅利用者のみならず、隣接商業施設への利用や線路を挟んだ東西の行き来など、多様な利用形態で多くの方に利用されています。

まちの課題の変化

今回の事業によって、まちの課題がどのように変わってきたのかをまとめています。

- ・安心歩行エリアにおける未整備箇所の解消が課題でありましたが、交差点部において、車の注意喚起を行う停止線を整備し、運転手に対し歩行者への注意喚起を行う整備ができました。
- ・大船駅東口のバリアフリー対応が課題でありましたが、大船駅西口のバリアフリー化に続き、東口にエレベーター及びエスカレーターを設置したことにより、大船駅の自由通路において、駅や隣接商業施設の利用者、東西エリアへの横断者など多様な利用者が快適かつ円滑に利用できる歩行環境が実現できました。

今後のまちづくりについて

今回の事業を踏まえ、今後のまちづくりについてまとめています。

- ・整備実施箇所の効果検証等も踏まえ、交通管理者と連携した歩行環境の安全性の向上を追求していきます。

■ 今後のスケジュール

今回の事後評価（原案）の公表後、以下のように事後評価作業を進めていきます。

作業項目	日程
都市再生整備計画事業評価委員会における審議	平成 25 年 10 月、11 月予定
事後評価の県や国への報告	平成 25 年 12 月予定
事後評価結果の公表	平成 26 年 3 月予定

以上